

続『棲神』総目録（自第四十六号至第六十七号）

金 炳 坤

一 身延山大学リポジトリのこと

昨年度は、金炳坤（情報管理者）、宇佐美玄秀（附属図書館事務長兼IR事務主任）の主導のもと、身延山大学仏教学会、身延山大学国際日蓮学研究所、身延山大学仏教学部の支援を受け、各所発行の機関誌を身延山大学リポジトリへ登録する作業が進められ、池田優季名（身延山久遠寺宝物館学芸員）、五太子晃龍、近藤慈英氏の助力を得て、『身延論叢』（自創刊号至第二十二号）、『東洋文化研究所報』（自創刊号至第二十号）、『身延山大学仏教学部紀要』（自創刊号至第十六号）の登録作業が完了したのである。これにより身延山大学リポジトリの本格運用が開始となったのである。登録作業にあたりご協力いただいた関係者各位に心よりお礼申し上げたい。

本年度からは、身延山短期大学学会の研究紀要『棲神』の登録作

業に移行し、現在、市川篤、中山海昌氏の助力を得て、学内に使用できるバックナンバーのストックが確認できた三十七冊を、優先して登録していく作業に取り掛っている。

『身延論叢』の前身である『棲神』は、大正二（一九一三）年十月三十一日から平成七（一九九五）年三月三十日までの八十二年間、祖山学院同窓会文学部（自第一号至第二十六号）、身延山専門学校祖山中学報国団文学部（自第二十七号至第二十八号）、身延山短期大学（自第二十九号至第三十四号）、身延山短期大学学会（自三十五号至第六十七号）と発行母体を変えながら、棲神（日蓮聖人の御魂が永久に止まるという意）の地と言われる、ここ身延山での教学研究をつねに鼓舞する存在として、世にその学術成果を公開していく重責を一手に担ってきたのである。それが短期大学から四年制大学へ改組転換した平成七年度をもって廃刊となり、平成八（一九九六）年三月二十五日からは、誌名を『身延論叢』に改めて

受け継がれることになったのである。

ついでながら、トータルで数えてみると、今年、平成三十（二〇一八）年三月二十五日発行の『身延論叢』第二十三号は、通算第九十号にあたり、その歴史は百五年に及ぶことになる。

二 『棲神』の欠号について

ところで『棲神』の総目録は、『棲神』総目録（回顧）」（『棲神』第三十七号所収）と『棲神』総目録（創刊号（大正二年）より第四十五号（昭和四十八年）まで）」（『棲神』第四十六号所収）の二種が作成されており、いずれも本学の名誉教授である町田是正師の編集によるものである。

前者は「棲神五十年を回顧」して昭和三十八（一九六三）年十月十八日に自創刊号至第三十七号を範囲として作成されたものであるが、当時、蒐集し得なかった創刊号、第三号、第十三号は「欠本」として扱っている。後者はちょうどその十年後の昭和四十八（一九七三）年十二月十四日に「発刊六十年の歩み」として作成された自第一号至第四十五号を収めるものであるが、特記するべきは、昭和四十八年二月六日、静岡県富士市増川・妙蓮寺住職則武海園師より本学へ寄贈された第壹号が紙面を飾っていることである（町田是正「〈トピック〉『棲神』第壹号（創刊誌）発見さるー！『棲神』第四十五号参照」）。

しかし残念なことに、第三号と第十三号はまだ発見には至っておらず、無論、昭和五十三（一九七八）年四月十四日に大東出版社から出版された『棲神』の復刻版（自第一号至第四十二号）にもこの二冊は収録されていない。

ところが、町田師が第十三号を「不明・欠本」とすることに関しては少しく補足するべき点がある。すなわち、第十号が発行された大正十（一九二一）年七月二十日から、第十五号が発行された昭和四（一九二九）年十二月十日までのおよそ八年四か月の間には、不明とされる第十三号を含む第十一号から第十四号までの四冊が発行されたことになるのであるが、現在、この期間中に発行されたことが確認できている現存する三冊には、町田師が指摘する如く、号数の表記に不備があったり、号数の表記自体がなかったりする問題が存するのである。

西 暦	号 数	推定号数
一九二一	十	
一九二二		
一九二三	二（一）	十一
一九二四	なし	十二
一九二五		
一九二六		
一九二七		
一九二八	なし	十四
一九二九	十五	

現存する三冊とは、号数の表記を「第二巻第一号」（①大正十二（一九二三）年二月十六日）とする一冊と、号数を有しない二冊（②大正十三（一九二四）年十月三日、③昭和三（一九二八）年十一月二十日）の計三冊であるが、

町田師は任意でナンバーを付し、これらを順に①第十一号、②第十二号、③第十四号にあて、第十三号を欠本にしたのである。師の推定をまとめてみると前のページの表の通りである。

つまりところ、第十一号から第十四号までは、号数変動の可能性が在るということである。

それから、第二号（④大正三（一九一四）年四月十日発行）というのも町田師の工夫によるもので、実際には「第壹巻第貳號」と表記されている。そして町田師は、第三号を「大正四年四月刊」と推定しこれを欠本と見なしたのである。

しかしながら、①を例にとり、号数の表記に不備があった後には欠号が置かれていることに注目して、これがある種の傾向と捉えるならば、同じ脈絡で、④においても①にみられるような現象が起きていることから、町田師によって欠本に分類されている第三号と第十三号は、欠号でない可能性も視野に入れる必要があると考えら

れる。よって、今後の蒐集と調査にあたっては、このことにも注意が払われるべきであろう。

かくして本稿では、現在進行中である身延山大学リポジトリの登録作業について触れ、『棲神』の総目録について紹介するとともに、これに若干の考察を加えたのである。

以下では、町田師の「『棲神』総目録（創刊号（大正二年）より第四十五号（昭和四十八年）まで）」に続くものとして、第四十六号（昭和四十九年）から、最終号である第六十七号（平成七年）までの目録を作成し資料として提示することにした。

〈キーワード〉

棲神、身延論叢、身延山大学、身延山短期大学、リポジトリ、町田是正、則武海園

三 続『棲神』総目録

○第四十六号（昭和四十九年三月二十五日発行）

棲神 第四十六号 目次

みのぶ山論

日蓮聖人にみる人間観（第四輯）——懺悔することの意義を求めて——
身延山初期における日蓮聖人——特に建治二年を中心として——

室住一妙

町田是正

上田本昌

1 14 23

日蓮聖人の方位観

日蓮聖人佐渡流罪の法制史的考察(二) 諸宗並に幕府批判

身延山支院の成立と展開

「仏教時間論」雑考

従地涌出の宝塔を求めて（その一、アフガニスタンの仏塔）

〈碑銘幻想〉カールリ・カーンヘリ見学報告

〔第二十六回 日蓮宗教学研究大会紀要〕

久遠本仏と諸仏との関係

宗教における価値の問題

日蓮聖人の罪の意識について

妙正物語について

方便品十如是について

初期天台文献について

佐渡始願本尊の教証両式

日蓮聖人滅後における追善供養の動向と展開

宗祖直弟間における神天上義の扱い方について

不受流人僧日照——三宅島より神津島島替——

行学院日朝の研究——中古天台の影響——

本尊抄末註における受持の概念(一)

立正安国論・開目抄に引用された涅槃經について

日蓮宗寺院の開帳について

大我の日蓮宗批判

宮崎海優

中里悠光

林 是晋

里見泰穩

高橋堯昭

望月海淑

村野宜忠

芹沢寛哉

窪田哲城

岡田栄照

浦上芳武

若杉見龍

早瀬公人

松村寿巖

中条暁秀

藤崎正幸

北川前肇

庵谷行亨

久住謙是

北村 聰

宮川一敬

「ひたちのゆ」についての一考察

グプタ時代仏教史研究の一考察(3)

みのぶ山論

エドワーズ・コーンズによる釈尊伝と、「仏教聖典」との表現方法の比較について(その一部)

『棲神』総目録(創刊号(大正二年)より第四十五号(昭和四十八年)まで)

学会彙報(昭和四十八年度)

同窓会全国大会開催

後記

○第四十七号(昭和五十年三月二十日発行)

挨拶

就任に際して

棲神 第四十七号 目次

身延山における日蓮聖人(1)——建治三年を中心として——

日蓮聖人の女性観

中論観去来品について

信に関する一考察——方便品における——

〈随想〉身延山論をめぐって

麦積山石窟寺院について

〈バキスタン遺跡巡礼〉バマラの山寺に「末法」の意識を思う

英訳立正安国論

ヨーロッパの教育事情について(付記、その英語について)(その1部)

田久保顕悠

仲沢浩祐

室住一妙

大森 孝

町田是正

上田本昌

上田本昌

学長 望月日滋

理事長 小林顕栄

上田本昌

宮崎海優

里見泰穂

望月海淑

室住一妙

町田是正

高橋堯昭

中里悠光

大森 孝

学園彙報『昭和四十九年度』

後記

上田本昌

○第四十八号 室住一妙教授古稀記念号（昭和五十年十月二十八日発行）

「口絵」古稀を迎えられた室住一妙教授

所感

学長 望月日滋

序

身延山短期大学々園 理事長 学監 小林顕栄

棲神 第四十八号 目次

「御講聞書」にそうて

室住一妙

『御講聞書』考

浅井円道

御講聞書の四弘誓願

若杉見龍

宗学とは何か

茂田井教亨

身延山における日蓮聖人——弘安元年を中心として——

上田本昌

天台大師の少年時代——霊夢と両親の死——

野村耀昌

三乗における仏と法華経の釈尊

河村孝照

adhimukti と sradha——譬喩・信解・藥草喩品を中心として——

望月海淑

鎌倉浄土教の展開における対外的契機

川添昭二

江戸中期における諫暁活動——了梗日雄の行動に見る——

宮崎英修

身延山墓碑史考——江戸期諸大名関係を中心として——

町田是正

横須賀問答の「裂邪網」について

林 是幹

身延裏参道考

秋山智孝

繰弁考

宮崎海優

老人ホームにおける処遇

純粹宗学への道

ガンダーラ彫刻と大乘仏教の推移

「仏教聖典」に於て、仏教用語として用いられた英語について——その一部——

室住一妙先生略年譜

室住一妙先生著作・論文目録

後記

○第四十九号（昭和五十二年三月三十日発行）

「口絵」学生のための練成修養道場（手前）（本誌138頁参照）／練成修養道場の内部

棲神 第四十九号 目次

日蓮聖人の「時」の意識

Adhivṛtti と śraddhā —— 化城・五百弟子・法師品を中心として——

大唐西域記研究(2)——烏丈那国の仏教を手がかりとして——

日唱の身延除歴事件について

不軽と上行

伝教大師最澄の戒律

身延山における日蓮聖人——弘安元年の秋と冬——

第二十九回 日蓮宗教学研究大会紀要

此経難持の口語訳について

執金剛について

日蓮聖人の仏身観

長谷川寛勝

疋田英肇

高橋堯昭

大森 孝

上田本昌

町田是正

望月海淑

高橋堯昭

林 是晋

中條暁秀

望月海英

上田本昌

室住一妙

望月海淑

北川前肇

日蓮聖人の具足論

覚知道と還愚道

日蓮宗の己心論争

天台学僧信尊について

日蓮聖人の時間論

学園彙報『昭和五十年年度』『昭和五十一年度』

学園便り

後記

○第五十号（昭和五十三年三月三十日発行）

「口絵」学長猊下御染筆

棲神 第五十号 目次

法華経に見られる Śraddhā と Adhimukti

——見宝塔・勸持・安樂行・從地涌出・如来寿量品に関して——

「被接」について

マヌ法典に於ける雜種階級

言語についての一考察

宗祖と守護神

日蓮聖人遺文中に見られる法然像

身延山における日蓮聖人——弘安二年の春から夏へ——

学園彙報『昭和五十二年年度』

学園だより

庵谷行亨

本間裕史

小野文琬

高橋謙祐

伊藤光明

上田本昌

望月日滋

望月海淑

若杉見龍

町田是正

大森 孝

中條暁秀

奥野本洋

上田本昌

後記

上田本昌

○第五十一号（昭和五十四年三月三十日発行）

棲神 第五十一号 目次

五品弟子位について

随喜功德品について

身延山における日蓮聖人——弘安二年の秋から弘安三年の冬へ——

『立正安国論』の略本と広本について

道元の「時」の観念

成仏への道

ラダク（西チベット高原）その自然と文化

身延山の棟梁

言語についての一考察 その②

学園彙報 昭和五十三年度

学園だより

後記

上田本昌

○第五十二号 林是幹教授古稀記念号（昭和五十五年三月三十日発行）

「口絵」林是幹教授近影

序

序

学徳と法勲を讃える

理事長

学頭

里見泰穂

学監

竹下日康

学長

望月日滋

棲神 第五十二号 目次

本妙日臨上人の阿毘縁山行について

身延山晩年における日蓮聖人——弘安三年三月から八月まで——

宿屋入道と宿屋光則

日蓮遺文に見える北条氏一門

日蓮聖人の教学形成と法然教学との関連

靈山往詣と即身成仏——覚え書き

日蓮聖人の時間論——「今本時」の意味について——

世親「妙法蓮華經優波提舍」における信

「三車火宅」の一門について——法華經の成立地をさぐる、その一——

『身延鑑』管見

身延山久遠寺の本末について

宗祖と得一

天台智顗の仏性説

本阿弥光悦・光由の周辺

G・M・ホプキンスの詩

葉隠について

生きがいについて

現代社会における仏教の役割

過去帳と地域医療

身延山と本陽寺と林是幹師

祝・古稀林是幹先生

上田本陽寺 宗会議員

林 是幹

上田本昌

宮崎英修

川添昭二

浅井円道

渡辺宝陽

町田是正

望月海淑

高橋堯昭

高木 豊

林 是晋

中條暁秀

若杉見龍

池原鍊昌

桐谷四郎

島田駒男

奥野本洋

中里悠光

中澤忠雄

小根沢義定

町田是正

曼荼羅 (maṇḍala) 理解の一助に——備忘ノート——

言語小論③

第三十二回 日蓮宗教学研究発表大会紀要

「本未有善」について

日蓮聖人遺文引用説話の一考察——安心の側面より——

「常不輕品の解釈について」

久遠釈尊の因行果徳について

寿量頭本論——五百塵点劫の解釈をめぐって

吉田松陰と日蓮聖人

現代宗学への自己批判

妙実大覚大僧正事蹟について

三祖菩薩号をめぐって

常楽経師門流伝記の考察

楞伽経における訳経史上の一問題点

法華経における地涌菩薩の戯曲的表現と仏教思想史的意義（その二）

十界構造論——四面の構造——

台湾仏教における今昔

ヨーロッパ修道院訪問と靈性の交流

〈史料紹介〉身延山歴代略譜

林 是幹 先生略年譜

林 是幹先生執筆（編著）目録

学園彙報 昭和五十四年度

里見泰穂

大森 孝

高橋俊隆

西片元證

小野文琬

庵谷行亨

北川前肇

石川教張

安永辨哲

中村文三

糸久宝賢

中村孝也

清水要晃

林 円修

服部即明

岡田栄照

町田是正

北沢光昭

上田本昌

学園だより

後記

上田本昌

○第五十三号 里見泰穂教授古稀記念号（昭和五十六年三月三十日発行）

〔口絵〕 学頭・里見泰穂教授近影（身延山短期大学学頭室 昭和五十六年一月十三日撮影）

棲神 第五十参号 目次

序

身延山短期大学学長

望月日滋

序

身延山短期大学々園理事長・学監

竹下日康

法勞を謝す

同学

林 是幹

〔寄稿〕 即身成仏論の成立と展開

浅井円道

〔寄稿〕 安達泰盛とその兄弟

川添昭二

〔寄稿〕 涅槃經にとつて大乘とはなにか

河村孝照

竺道生・妙法蓮花經疏における信

望月海淑

法華玄義成立についての一考察

若杉見龍

身延山晩年における日蓮聖人——弘安三年九月から十二月まで——

上田本昌

最蓮房あて御書の一考察——立正觀抄・同送状——

中條暁秀

御本尊論研究ノート 前篇

桑名貫正

日蓮聖人の臨終觀

奥野本洋

身延山と藤村紫朗県令（本県第五代知事）

林 是幹

南部實長考——實長の姓について——

中里悠光

身延山諸堂建立考

林 是晋

小乗の中の大乗

高橋堯昭

現代文化への反省

【研究報告】修道誓願と靈性——西独・聖オツティリエン大修道院の翳りにて——

【資料】身延山歴代略譜（第二回）

言語小論④

【寄稿】法要式英訳試作

中論の論理の一考察（五藍品第四の第八偈・第九偈についての管見）

里見泰穂先生略年譜

【書評】望月海淑著「法華経における信の研究序説」山喜房仏書林

学園彙報（昭和五十五年度）

編集後記

○第五十四号 日蓮聖人第七百遠忌特輯号（昭和五十七年三月三十日発行）

【口絵】「臨滅度時大曼荼羅」について

【口絵】紙本着色日蓮聖人涅槃図 身延山久遠寺身延文庫蔵

【口絵】日蓮聖人正当第七百遠忌報恩記念色紙

身延山久遠寺総務 身延山短期大学々監 明星山妙純寺貫首

棲神 第五十四号 目次

三観・三諦説について(一)

身延山晩年における日蓮聖人——弘安四年正月から八月まで——

法雲『法華義記』における信

日蓮聖人の時間論

最蓮房あて御書の問題点——立正観抄と四重興廢・真如随縁論——

桐谷四郎

町田是正

北沢光昭

大森 孝

村野宣忠

里見泰穂

望月海英

町田是正／中条暁秀／奥野本洋

町田是正

上田本昌 解説／奥野本洋 写真

林 是晋 解説／熊王秀臣 写真

竹下日康 猊下染筆

若杉見龍

上田本昌

望月海淑

町田是正

中条暁秀

【資料】身延山歴代略譜（第三回）

妙玄庵歴代帖

昭和47年以降 日蓮聖人研究文献目録

身延山史索引

言語小論⑤

学園彙報（昭和五十六年度）

編集後記

○第五十五号（昭和五十八年三月三十日発行）

棲神 第五十五号 目次

身延山晩年の日蓮聖人——弘安四年九月から十一月まで——

朝師御書見聞の一考察——安国論私抄について——

誓願と靈性——日蓮聖人の「誓願」の意味——

智顗『法華文句』における信

焰肩仏を手がかりとして

西安草堂寺奉安の羅什像の原画と注法華経（一）

仏教者と憲法第九条

〈書評〉上田本昌著『日蓮聖人における法華仏教の展開』（平楽寺書店刊）

第三十五回 日蓮宗教学研究発表大会要旨

立正安国論と現代社会

十六異論考

室町時代における地方寺院の形成・発展について

北沢光昭

林 是幹 手控

奥野本洋 編

林 是晋

大森 孝

中条暁秀／町田是正／奥野本洋

町田是正

上田本昌

中條暁秀

町田是正

望月海淑

高橋堯昭

若杉見龍

中里悠光

奥野本洋

廣瀬悦夫

清水海隆

糸久宝賢

138 132 1L 15L 73L 93L 93

132 131 129 125 111 101 83 59 35 19 1

日蓮聖人における即身成仏論の基礎的考察——即身成仏位に関連して——

近世日蓮宗の千部会について——その性格をめぐって——

立正観抄と法華問答正義抄

日蓮聖人の『涅槃経』引用の一断面——『一乗要決』との関連を中心にして——

日蓮聖人の罪認識

『本尊聖教録』の記載内容について

宗門の現状と課題——五十五年度宗勢調査報告から——

十界構造論Ⅲ——信行形態の点検——

近世日蓮宗教学について

続・不受流僧潮音寺日照について

法華経における「教主釈尊」の表現と仏教思想史的意義（その二）

言語小論⑥

学園彙報（昭和五十七年度）

編集後記

○第五十六号（昭和五十九年三月三十日発行）

棲神 第五十六号 目次

身延山晩年の日蓮聖人——弘安四年十二月から五年三月まで——

朝師御書見聞の一考察——安国論私抄について（二）——

日蓮聖人における時機観

「本願を立ッ」考

破和合僧について

西片元證

望月真澄

高橋謙祐

関戸啓造

原 慎定

寺尾英智

久住謙是

服部即明

小野文琬

藤崎英正

林 円修

大森 孝

町田是正

上田本昌

中條暁秀

町田是正

望月海淑

望月海英

西安草堂寺奉安の羅什像の原画と注法華經(二)

ハリテイとバンティカ像の背景

信教の自由

合衆国における教育事情

【資料】身延山諸堂記 身延山再建諸堂記 身延山再々建諸堂記

ON THE VOWS AND SPIRITUAL

On Saint Nichiren at Minobusan

言語小論⑦

学園彙報（昭和五十八年度）

編集後記

○第五十七号（昭和六十年三月三十日発行）

【口絵】学長猊下御染筆

棲神 第五十七号 目次

『大智度論』における法華經の把握

日朝の「本尊抄私記・見聞」の検討——数法相配釈について——

身延山晩年の日蓮聖人

火と光（仏身觀の変遷）

マックス・ヴェーバー Max Weber に於ける「禁欲的宗教倫理」について

「柔道の精神」について 「精力善用自他共栄」の教えるもの

【資料】身延山諸堂記 身延山再建諸堂記 身延山再々建諸堂記【承前】

若杉見龍

高橋堯昭

中里悠光

奥野本洋

北沢光昭 校註／

身延山短大仏教文化研究所 編纂

Zesho Machida

Honsho Ueda

大森 孝

町田是正

町田是正

岩間日勇

望月海淑

中條暁秀

上田本昌

高橋堯昭

町田是正

一宮嘉孝

北沢光昭 校註／

【資料】身延山「高座石年中行事帳」

言語小論⑧

学園彙報（昭和五十九年度）

編集後記

身延山短大仏教文化研究所 編纂

奥野本洋 校註

大森 孝

町田是正

町田是正

○第五十八号（昭和六十一年三月三十日発行）

卷頭言

棲神 第五十八号 目次

嘉祥『法華義疏』における信

從地涌出——法華經神話の世界——

甲斐国河内領 穴山氏とその支配構造

身延在山中の日蓮聖人——心境の推移をめぐって——

日蓮聖人御墓考

日朝の「本尊抄私記・見聞」の検討（二）——心性本覚思想について——

近世日蓮宗寺院の宝物管理について（一）

宗教法人としての寺院

第三十八回 日蓮宗教学研究発表大会要旨

「日蓮聖人の釈尊観」

心性院日遠の『立正安国論私記』についての一考察

日蓮聖人花押の研究

日蓮聖人の法華經弘通の特質——「譬喩」を視点として——

学頭 宮崎英修

望月海淑

高橋堯昭

町田是正

上田本昌

奥野本洋

中條暁秀

望月真澄

中里悠光

菊田泰孝

上田本幸

関戸法夫

龍門義通

日蓮聖人自筆書状の料紙使用法について

日蓮聖人の靈山往詣論についての一考察

教相事実——「十如是考」に関することなど——

『瑜伽論』菩薩地における菩薩行

金網集と真間起請文

室町時代京都日蓮教団寺院と「寺内」

日蓮宗の江戸諸講中について——堀之内妙法寺史料を中心として——

天台教学に於ける仏種の下種と仏性

日蓮聖人の「提婆達多」解釈について

下種に関する一考察

近代日蓮主義研究(二)——本多日生の布教活動について——

『総と別』の関係の一考察

日蓮聖人の「依正不二」観について

日蓮聖人『注法華経』研究ノート——序品における引用経論の特徴——

日蓮聖人における一闡提成仏と仏性について

八品の世界

言語小論⑨

学園彙報（昭和六十年度）

編集後記

○第五十九号（昭和六十二年三月三十日発行）

序

寺尾英智

都守基一

世羅治夫

清水海隆

山口晃一

糸久宝賢

北村行遠

日比宣俊

原 慎定

平島盛雄

浜島典彦

芹沢泰謙

松脇行真

今井真孝

関戸堯海

芹澤寛哉

大森 孝

桑名貫正／町田是正

中條暁秀

学頭

宮崎英修

棲神 第五十九号 目次

草山要路考

宗教倫理の実践と受持信行

美と醜 ヤクシニの底辺

日蓮聖人と身延の環境——四河を中心として——

日蓮聖人の三世観

金綱集の検討——浄土宗見聞上・下について——

学園彙報（昭和六十一年度）

言語小論^⑩

編集後記

○第六十号（昭和六十三年三月三十日発行）

卷頭言

棲神 第六十号 目次

法華経における生命観

智顗の二十五三昧について（一）

生死観の種々相——生死観研究のアプローチとして——

日蓮聖人初期の曼荼羅について

日蓮聖人の懺悔観

「数々擯出」——教典史学への試論——

〈ノート〉「社会福祉」における一考察

〈ノート〉箕面忠魂碑・慰霊祭訴訟について

学頭

宮崎英修

秋山智孝

町田是正

高橋堯昭

上田本昌

奥野本洋

中條暁秀

町田是正

大森 孝

中條暁秀

望月海淑

若杉見龍

町田是正

上田本昌

奥野本洋

高橋堯昭

渡辺寛勝

中里悠光

【資料】西谷檀林先聖録 西溪学校妙玄庵歴世録

言語小論⑪

学園彙報（昭和六十二年度）

編集後記

秋山智孝 校註

大森 孝

町田是正

中條暁秀

○第六十一号（平成元年三月三十日発行）

棲神 第六十一号 目次

新発見の御真蹟 上野殿御返事について

綱要導師の宗学意識

従地涌出の塔——ガンダーラに於ける東西文化の融合——

法華經寿量品における『顛倒』考

日蓮聖人中期の曼荼羅について

本妙日臨律師伝の研究

金綱集抄出の当体義抄について

〈ノート〉「社会福祉」における一考察(2)

【資料】御本尊筆法点等之事

学園彙報（昭和六十三年度）

言語小論⑪ 「正⑫」

『般若灯論』第11章 試訳

編集後記

○第六十二号（平成二年三月三十日発行）

宮崎英修

町田是正

高橋堯昭

望月海淑

上田本昌

桑名貫正

中條暁秀

渡辺寛勝

秋山智孝

町田是正

大森 孝

望月海慧

中條暁秀

序

棲神 第六十二号 目次

法華経に現われた法師と化人——法師品を中心として——

日蓮聖人の三世観「再掲」

本妙日臨律師の教学について——主として摂折問題——

武田・穴山両氏の対身延山政策

〔靈鷲山〕考

兜跋毘沙門天の背景——その成立の思想的意義——

〈ノート〉新「学習指導要領」についての一考察

体育社会学についての一考察

明治四年・岡山県における農民騒擾に関する裁判資料(一)

【資料】摩訶止観円頓章私記

第四十二回 日蓮宗教学研究発表大会要旨

近代日蓮宗の動向(二)——『縮刷遺文』編纂についての一考察——

上総七里法華地域における十ヶ村題目講について

『毒箭』にみる思想と信仰

不可思議阿僧祇劫の仏について

佐前教学についての一考察

法華経——この不思議な経典——

『日本靈異記』における法華経信仰について

『上野郷主等御返事』の真筆と系年について

『池上永寿院開基戸川達安一門の研究と不受不施事件』

宮崎英修

上田本昌

奥野本洋

桑名貫正

町田是正

望月海淑

高橋堯昭

渡辺寛勝

山田是明

中山 勝

秋山智孝

安中尚史

岩田諦静

小野文琬

金森立承

関戸堯海

芹沢寛哉

高佐宣長

寺尾英智

内藤潮洲

日蓮聖人の国土観について

教院制度についての一考察

日蓮教学における「孝養」の宗教的意義

日蓮聖人の時間論

『元暁の法華経観』——元暁注疏に於ける天台の影響の有無——

日蓮聖人の題目論

本迹論の一考察——桂林日隆の『私新抄』に表れた本迹論——

「江戸城大奥女性の法華信仰」——身延山久遠寺の江戸出開帳を中心に——

日蓮聖人にみられる仏法王法観——日蓮聖人と鎌倉追加法——

学園彙報（平成元年度）

『般若灯論』第12章 試訳

編集後記

○第六十三号（平成三年三月三十日発行）

巻頭言

「口絵」大森 孝教授

大森孝教授 略歴

大森孝教授研究業績

棲神 第六十三号 目次

日蓮聖人初期の唱題観

樹と釈尊——東洋的自然観の考察——

〈レポート〉白馬寺管見

野口真澄

浜島典彦

原 慎定

平井智親

福士慈稔

丸茂龍正

三吉廣明

望月真澄

吉木英雄

大森 孝／桑名貫正

望月海慧

中條暁秀

学長 宮崎英修

上田本昌

高橋堯昭

望月海淑

〈研究ノート〉智慧と慈悲 (No.1) —— 哲学・キリスト教・仏教の接点を求めて——
数珠考

明治四年・岡山県における農民騷擾に関する裁判資料(二)

〈ノート〉新「教育職員免許制度」についての一考察

鷗外歴史小説の中の女性像

学園彙報 (平成二年度)

ナサニエル・ホーソン (Nathaniel Hawthorne) についての一考察

(主に故郷サレム・小説スカーレット・レターズ・パブリッシングについて)

大学における保健体育の実技に関する研究

『般若灯論』第14章 試訳

編集後記

○第六十四号 (平成四年三月三十日発行)

巻頭言

棲神 第六十四号 目次

法華経に現れた「一心」について

日蓮聖人の女人成仏について(一)——法華経の成仏の文証に関して——

〈研究ノート〉智慧と慈悲 (承前No.2) ——法華経にみる智慧と菩薩行——

僧院から仏塔崇拜へ——新入手の舍利箱銘文によって——

『転識論』における三性説について

明治四年・岡山県における農民騷擾に関する裁判資料 (三)

〈ノート〉新「短期大学設置基準」についての一考察

学長 宮崎英修

上田本昌

桑名貫正

町田是正

高橋堯昭

岩田諦静

中山 勝

渡辺寛勝

町田是正

一宮嘉孝

中山 勝

渡辺寛勝

小泉立身

桑名貫正

大森 孝

向井皋士

望月海慧

林 是晋

学園彙報（平成三年度）

桑名貫正

『般若灯論』第10章 試訳

望月海慧

編集後記

池上要靖

○第六十五号（平成五年三月三十日発行）

秋山智孝先生の古稀寿を迎えて

宮崎英修

「口絵」 秋山智孝教授

秋山智孝先生歴年譜

棲神 第六十五号 目次

「円教」の意味——円頓章釈——

浅井円道

日蓮聖人後期の曼荼羅について（二）——授与者を通しての動向

上田本昌

日蓮聖人における「顕本」の意義

庵谷行亨

宗祖御遷化に関する二、三の問題——御遷化記録を中心として——

宮崎英修

中世における日蓮遺文の書写について

冠 賢一

日蓮聖人御真蹟に見る「料紙」の用法

中尾 堯

法華経における信

望月海淑

クシヤンに於ける宗教の大衆化——律蔵に於ける背の高い塔・二仏・團泥の意味するもの——

高橋堯昭

〈研究ノート〉 智慧と慈悲（承前No. 3）——実践としての智慧——

町田是正

明治四年・岡山県における農民騒擾に関する裁判資料（四）

中山 勝

〈ノート〉 新「大学設置基準」についての一考察

渡辺寛勝

身延本『本朝文粹』の伝来過程

中尾真樹

学園彙報（平成五年度）

桑名貫正

編集後記

池上要靖

○第六十六号（平成六年三月三十日発行）

巻頭言

学長 宮崎英修

棲神 第六十六号 目次

一 仏乗のもとに——法華経による諸神の包容——

高橋堯昭

日蓮聖人後期の曼荼羅について（二）——授与者を通しての動向——

上田本昌

『開目抄』に現われた一念三千義について（一）

桑名貫正

江戸中期における諸堂整備について——学禪院日逢を中心として——

奥野本洋

玄奘の苦難の旅路とその業績（翻訳）

町田是正 訳

〈ノート〉新「学習指導要領」についての一考察（2）

——「社会科学カリキュラム」の変遷について——

渡辺寛勝

〈史料紹介〉江戸の日蓮宗の年中行事（二）

望月真澄

——『東都歳時記』にみられる縁日・開帳・祈願を中心に——

中山光勝

〈資料〉明治初年の「自裁」規則——明治法制史料断片（二）——

田村完爾

第四十六回 日蓮宗教学研究発表大会要旨

三輪是法

下種論をめぐる問題点について——本因・本果下種論の源流——

野口真澄

日蓮聖人の法華経引用について

関戸堯海

日蓮聖人にみる病相の提示と治病

鶴岡雅代

日蓮聖人遺文と『注法華経』の関連

鶴岡雅代

『日蓮聖人の歴史観の一考察』

鶴岡雅代

日蓮聖人の食生活と社会事情の一考察

目黒きよ

円光日陣に於ける本迹論の一考察——『開目抄』『本因本果の法門』の解釈を巡って——

光林義高

「日興上人の本尊観の一考察」

菅原関道

妙宗本尊辨考（二）——大曼荼羅御本尊をめぐる諸問題——

三原正資

守護国家論に見る「日蓮が法門」の其本的信心と思想について

——課題としての生と死——その二——

米田淳雄

日蓮聖人における薬王品十喻の解釈について

高森大乘

最澄の即身成仏論について

大乘文晴

「天台止観に見られる身体観」——修行考察の新視点を踏まえて——

影山教俊

薬王菩薩の捨身について——捨身における供養と布施をめぐる——

市川智啓

「日蓮における救済の構造」——即身成仏と霊山浄土——

間宮啓士

日蓮聖人における「謗法」の語義について

原 慎定

近代日蓮宗における海外布教についての一考察

安中尚史

江戸城大奥「御祈祷所」の成立とその役割について——江戸法養寺の事例を中心に——

望月真澄

学園彙報（平成六年度）

桑名貫正

Ratnakarāsanti's Sūtrasamuccayabhāṣyaṃ Ratnalokalanṅkāra (II)

Kaie Mochizuki

編集後記

池上要靖

○第六十七号（平成七年三月三十日発行）

巻頭言——身延山大学開校にあたり

学長 宮崎英修

棲神 第六十七号 目次

法華經における法の語の使用例——序品・方便品に関して——	望月海淑
日蓮聖人後期の曼荼羅について (三) ——授与者を通しての動向——	上田本昌
『開目抄』に現われた一念三千義について (二)	桑名貫正
胸に彫られた竜とメドゥーサ——東西文化の比較対照——	高橋堯昭
古代インドの歴史意識	町田是正
明治四年・岡山県における農民騒擾に関する裁判資料 (五・完)	中山光勝
高座石祖師堂と祖師講中	奥野本洋
学園彙報 (平成六年度)	桑名貫正
Ratnakaraśānti's Sūtrasamuccayabhāṣyaṃ Ratnālokaṅkāra (III)	Kaie Mochizuki
編集後記	中條暁秀